2023/8
No.287

WAC
WONDERFUL AGING CLUB
長寿社会文化協会
2023年8月15日発行 通巻287号
https://www.wac.or.jp/
E-mail : iken@wac.or.jp

ふれあいねっと

Wonderful Aging Club Network and Communication

▼升田理事長を4選／3人の常務理事を選出
コロナ禍でも黒字決算
――定時総会と理事会を開催

▼コロナ禍を脱し事業を徐々に再開
――千葉県福祉ふれあいプラザ、男の手料理教室…

▼全国のWACポイント31拠点の活動一覧

シニアがいきいきと暮らせる社会を
4期目の理事長として

升田忠昭
理事長

Message

新型コロナウイルス感染症もようやく収束されつつあります。この3年間はコロナ禍による景気後退、雇用環境悪化等がありましたが、WACとしては最善の努力の成果により、昨年度の収支差額は331万6千円のプラス実績になりました。

WACの事務局一同のたゆまぬ努力と、関係者の皆様に感謝申し上げます。

長寿社会の新構築と発展に寄与する

私は2023年度も引き続き、WAC理事長に任命いただきました。京極高宣会長、平野陽子事務局長、小町純一常務理事、浅川澄一常務理事、理事の皆さん、職員一同ともども、新たな長寿社会の構築とその発展に寄与したいと思います。

新型コロナ禍後に変遷していく社会・経済情勢には、総人口の激減予測、高齢者人口増、少子化傾向、介護施設人員不足、子ども・子育て新対策、ウクライナ問題をはじめとする複雑な国際問題等の厳しいものがあります。

その中で、WACは次のような理念・基本方針を掲げたいと思います。

・シニアが生き生きと暮らせる長寿社会文化を創造する。
・ともに働き、社会に役立ち、元気に学び、もっと楽しもう。

米国AARPとの意見交換

AARP（全米退職者協会）、OECD（経済協力開発機構）及びWorld Economic Forumの3団体が協業してコラボレーション・フォーラムを結成し、With／Afterコロナ、長寿化、生涯現役、企業内世代間交流等に関する意見交換と提言作成を継続し実践しております。私は続けてAARP国際部日本連絡事務所代表としてその任に当たっております。

WACは創立35周年を迎えました。

WACとして、時代に即してその存在価値を高め、世に貢献し、認識を深めていただくために、更に進化した戦略設計を立て実行に移したいと思います。

AARPの戦略設計のフレームワークは、その成功例としては大変参考になります。そこで一部を取り入れ、WACの具体的なアクションプランを作成しました。

本年度2023年度は、新生WACへの大切な節目の年です。

WACの新しい戦略・実践計画案

第一の戦略コンセプトは、各個人が年齢に関係なくそれぞれの最善の人生を送れるように活動する手段を提供することです。そのためにはWACの影響力の強化と収入増加が必須です。

第二に社会的影響に重要な主要事項の実践です。

先ずシニアの各個人が、より健康的な生活を送るための医療ケア、情報、サービスが入手可能な国・地域の施策設計・実践に協力します。シニアの個人が独り立ちでき、尊厳を持てるようになることです。

そしてそれを支えるために長期ケア従事者の全国的支援ネットワークと健康ケアの安全性を確保することにより、より一層の健康的なライフスタイルに関する知識を増進し、それに伴う情報、商品、サービスを提供するようにします。

次に重要なのは、財務の安定性の確保です。50歳以上の個人が、長くなった寿命に見合う財産と機会を持てる国策・自治体施策の実現に協力します。そしてシニアの各個人が財務的に健全な社会保障を受けられるようにします。

社会的保護策により、多くの人が職場で貯蓄手段を持てるようにし、同時に乱用、詐欺から保護する方法の具体化に協力します。

そして、生涯にわたる稼ぐ能力、即ち強い競争力のあるシニアの労働者層の育成と機会提供に援助します。

また個人的充実としてシニアの個人が社会的に組み込まれ、前向きな自己像を創造し、新しい発想を可能にし、老化防止に努めます。同時にシニアの人たちが標準的なデジタル技能を習得してもらうことが欠かせません。

第三にWACの実践計画案です。それは、

・高インパクト、調和のとれたコミュニケーション、ブランドを再活性化する。
・健全で持続可能、多様な会員層に参加してもらう。
・人生の見直しを行う運動を立ち上げる。
・地域社会を新規の手法で巻き込む努力をする。
・収入源の多様化を確保する。
・組織効率性を見直し、向上及び多角化する。
・全ての活動の企画、業務、コミュニケーションにおいて、多様な文化層、低所得者層、弱い立場のシニアの人たちを意識的に組み込む。

――以上の7点です。

WAC 定時総会

升田理事長を4選
コロナ禍でも331万円の黒字
会員減少は続く

公益社団法人・長寿社会文化協会（WAC）は、6月28日（水曜）の午後2時から、東京都港区の日本女子会館内のWAC会議室で定時総会を開いた。

冒頭、平野陽子事務局長から「コロナ禍のため皆さんがこの場に集まる形での総会は4年ぶりです。本来ならこの席には事務局長だった小林里美さんがおられるはずでした。ですが、皆様もご存知のように小林さんは4月13日に急逝されました。謹んで哀悼の意を表したいと思います」との発言があった。

会員には議決権行使書と委任状を事前に配布していた。当日の本人出席者は16人。議決権行使書を提出した会員は51人で合計出席者67人となった。

平野事務局長が「議決権を有する正会員は67人で、正会員総数90人の過半数に達しています。これにより、定款第18条に基づき今総会は成立しています」との報告があった。

次いで、定款第17条の規定により、総会の議長に升田忠昭さんを選出した。升田議長は「まず報告事項からお願いします」と促し、平野事務局長が会員の状況などを報告した。

2022年度の個人正会員は入会が3人、退会が11人となりました。法人賛助会員のあいおいニッセイ同和損害保険さんが退会しました。大東京火災海上保険の時代から長年にわたりWACの活動を支えて来られた会員さんでした。

また、ポイントの届け出は、千の森（宮城県）さんが新しく加入しました。廃止は3件でした。

その後、議案の検討に入った。第1号議案、第2号議案について、それぞれ担当する業務執行理事（常務理事）が説明した。

第1号議案

2022年度事業報告

新型コロナウイルスによる様々な規制が徐々に解除されてきた。自治体から委託された介護予防事業や体験研修などが2年ぶりに再開された。

2022年度の理事会は、同年5月20日の第1回開催を始め、計7回開いた。すべてZOOMによるオンラインを併用した会議だった。

年度末の個人会員は、正会員が95人、賛助会員が485人、配偶者会員161人で、合計741人です。前年度から50人少なく、会員の減少傾向は依然続いています。

法人・団体会員は1社が退会し、1社が解散しました。この結果、法人賛助会員は9社、団体賛助会員は3社となり計12社です。

22年度の収支実績は、コロナ禍による規制が解除され出し、「みなと＊しごと55」が21年度末に閉館になったにも関わらず、収入は前年より749万円増加し、1億6463万円を計上しました。支出は1億6131万円で、その結果331万円の黒字決算となりました。

【公益事業1】

千葉県福祉ふれあいプラザは、第5期指定管理の初年度でした。利用者が戻り始め、利用料も回復傾向にあります。専門職研修等でのオンライン研修の拡大、各部門で新たなる企画、事業にチャレンジし意義ある一年となりました。

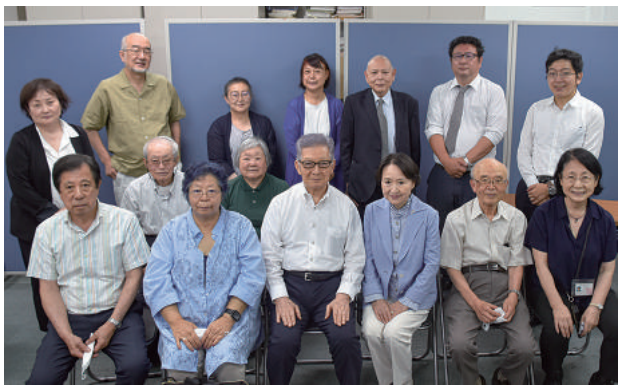
福祉サービスの第三者評価事業は、施設での面会・外出等の制限が長期化したため、通常とは異なる福祉現場を垣間見ることになりました。調査に入った事業者は57件に達し、5年連続50件以上となりました。

会員向け情報誌「ふれあいねっと」は2022年8月に第285号を、2023年2月に第286号を発行しました。各12ページで編集、会員及び関係各所に1500部配布しました。

【公益事業2】

港区アクティブシニア就業支援センター「みなと＊しごと55」は、2021年度末に閉館し、WAC本部事務局が事業を継続することになりました。自治体委託の就労支援、就職相談会と高齢者の就労相談を目指し、足立区で「介護のしごと相談・面談会」を行いました。

コミュニティカフェ養成研修は、埼玉県と千葉県の2カ所で実施しました。新たに千葉県福祉ふれあいプラザで一般県民向けのボランティア入門講座も開催しました。



総会終了後に出席者が一堂に会した。前列左から、小町純一、後藤満里子、升田忠昭、茶山ちえ子、鷹野義量、服部万里子。中列左から、嶋田直美、菊地敏夫、町野美和。後列左から、浅川澄一、平野陽子、濵洋子、高倉幸次、前田宏興、山口浩平（いずれも敬称略）

また、新事業として、「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成事業」を日本財団の助成を得て実施しました。地域ボランティア活動の啓発と養成を目指したもので、仙台市と京都市で行いました。

啓発イベントは、仙台市で9月に京都市で10月に実施。それぞれ地元の子ども食堂や学習支援などのNPO事業者などが参加し、講演とパネルディスカッションを開きました。引き続き地域共生ボランティア養成講習を仙台市、京都市で10月、11月に行いました。

【収益事業1】

高齢者福祉の人材育成事業として自治体からの委託事業に取り組みました。東京都新宿区では、家族介護講演会と家族会支援ボランティア研修をそれぞれ7月と9月に実施しました。

東京都文京区では、介護人材確保・定着に係る介護の入門的研修を9月と10月に5日間で実施しました。東京都品川区では、介護施設従事者高齢者虐待防止研修を8月と11月に行いました。

このほか東京しごと財団から、生涯現役セミナー60講座と家事援助・生活支援セミナーなどを受託し実施しました。

【収益事業2】

高齢者疑似体験事業は6月から半年間、東京都台東区の18の小中学校で3～6年生向けに実施しました。高知県社協でインストラクター養成研修のフォローアップ出張研修を、藤枝市社会福祉協議会でインストラクター養成研修を行いました。

本部で開いたインストラクター養成研修は、オンライン参加者と会場参加者で同時に実施しました。

認知症疑似体験研修は、神奈川県立衛生看護専門学校からの委託をうけて80名の生徒を対象に開催しました。

【収益事業3】

介護予防事業を品川区からの委託事業として2003年から続けています。WACポイントの「WACさしすせそ」と連携し運営しています。

男の手料理教室、地域活動連携型介護予防事業（わくわくクッキング）、外出習慣化事業（食事処）があります。

2022年度は、会場での飲食はコロナ禍のためできませんでした。調理したものを自宅に持ち帰る方式でした。

升田議長が出席会員に質問を求めたが出なかった。挙手を求めて採決に入り、全員が賛成し第1号議案は承認可決された。

第2号議案

2023年度事業計画

コロナ禍で培ったオンライン化による研修、会議等をベースに、活動、事業の在り方を探求する年となりそうです。

【公益事業1】

第5期指定管理の2年度目、第6期指定管理申請の成績評価期間ですので重要な年です。介護実習センターでは、県民研修をはじめ、認知症啓発イベント、福祉機器展、地域の茶の間、地域の茶の間スペシャル（認知症カフェ）、認知症の方の家族の集い、働く世代のケアラーズカフェ（オンラインカフェ）を開催する計画です。収入予算は前年度を少し上回る約8700万円を計上しました。

福祉サービス第三者評価事業は、事務局の体制整備と事業の基盤となる評価員の人材確保を目指し、事業の存続と適正化に努めます。

会員向け情報誌の「ふれあいねっと」は、年4回の発行を目指して広報活動の強化を図っていきます。

【公益事業2】

「みなと＊しごと55」の事業の一部を継承し、自治体委託の就労支援、就職相談会の受注を目指します。

【公益事業3】

自治体との連携によりコミュニティカフェ開設講座を開きます。埼玉県と連携した講座は4年目となります。収入予算は80万円を予定しています。

【収益事業1】

昨年度と同様に団体や自治体からの研修事業の受託を目指します。高齢者福祉関係の人材育成事業では、生活支援サービス研修や介護の入門研修、家族介護講演会などを行います。東京しごと財団をはじめ東京都の新宿区、文京区からの委託研修を予定しています。

【収益事業2】

高齢者疑似体験事業及び認知症疑似体験事業は、新たな顧客の開拓を目指してホームページを充実させます。インストラクター養成研修の開催を軸に既存取引先の掘り起こしを目指します。1千万円の収入を計画しています。

【収益事業3】

東京都品川区から委託されている食を通じての介護予防事業です。コロナ禍の規制が緩和されつつあり、300万円の収入を見込んでいます。

升田議長が出席会員に質問を求めた。服部万里子さんから「WACは35周年を迎えたので、その記念事業を計画してはどうでしょうか」という提案があった。平野事務局長は「事業計画に盛り込んでいませんが、検討していきたいと思います」と答えた。

また、早福千鶴さんから「福祉サービスの第三者評価事業で評価者はWACの会員になることになっているが、5万円の評価報酬で1万円のWAC会費を払うのはどうなのか。会員になることのメリットを分かり易く説明して欲しい」との質問があった。

平野事務局長は「WACの活動に賛同している方たちが評価事業をされている

と思っています。この点を理解して頂きたい」と答えた。

この質疑の後、採決に入り、第2号議案に全員が賛成し、承認可決した。

第3号議案

定款の一部改訂について

平野事務局長が議案書を手に説明する。「定款にある理事の定数について変更したい。15名以上25名以内とされていますが、10名以上20名以内と新たに変えたいと思います。会員数が年々減少しており、組織規模に合わせて理事も減らしたい」と話した。

升田議長が第3号議案の採決に入り、全員が挙手して承認可決した。

第4号及び第5号議案

理事・監事の任期満了に伴う定期改選について

升田議長が、役員選挙管理規定に基づいて役員選挙が実施される旨を話し、嶋田直美選挙管理委員長に選挙の実施方法について説明を求めた。嶋田委員長から選挙の経過報告と投票方法について説明があった。

投票を行い、その結果、理事立候補者16人と監事立候補者1人が有効投票数の過半数を超える賛成を得た。

選出された理事と監事は次の各氏である（50音順、敬称略）。

浅川澄一、加藤信彦、京極高宣、小町純一、昆布山良則、佐藤廣子、高倉幸次、鷹野義量、成塚江見子、服部万里子、濵洋子、平野陽子、堀内龍文、升田忠昭、町野美和、向井隆泰（以上理事、以下監事）前田宏興

以上で定時総会の議案審議はすべて終了し、議長は閉会を宣言した。

理事会

総会終了後に開催 4人の業務執行理事を選出

総会で選出された理事による第3回理事会を総会終了後に開いた。升田忠昭さんが議長となり、代表理事（会長、理事長）と業務執行理事（常務理事）を選出した。

平野陽子理事から「理事長に升田忠昭さんを推薦します」、升田忠昭さんから「会長に京極高宣さんを推薦します」と提案があった。挙手で賛否を問い、全員一致で賛成となった。

升田理事長は、2017年に理事長に就任以来、4期目に入る。

業務執行理事については、升田理事長から「小林里美さん、小野澤誠さん、西野雅信さんが退かれたので3人になりました。私と平野陽子さん、小町純一さんです。そこで3人が留任し、新たに浅川澄一さんを推薦したいと思います」と提案した。

挙手により、提案通り認められ、4人の業務執行理事が選出された。担当業務は、事務局長として平野陽子さん、千葉県福祉ふれあいプラザの担当として小町純一さん、機関誌「ふれあいねっと」の編集担当として浅川澄一さんがそれぞれ決まった。

2022年度収支実績

事業名			収入 予算	収入 実績	収入 達成率	支出 予算	支出 実績	支出 消化率	収支差 予算	収支差 実績	収支差 2021年度収支実績
事業	公1	ふれあいねっと	0	0	0%	2,000	2,326	116%	-2,000	-2,326	-3,884
		福祉サービス第三者評価	13,000	19,302	148%	13,000	17,380	134%	0	1,922	-3,799
		千葉県指定管理	85,283	86,713	102%	85,283	86,825	102%	0	-112	1,816
		小計	98,283	106,015	108%	100,283	106,531	106%	-2,000	-516	-5,867
	公2	就労支援	2,500	2,365	95%	2,500	3,428	137%	0	-1,063	0
	公3	コミュニティカフェ	880	990	113%	500	1,171	234%	380	-181	197
		コミュニティカフェ（日本財団）	1,620	1,620	100%	2,000	3,340	167%	-380	-1,720	0
		小計	2,500	2,610	104%	2,500	4,511	180%	0	-1,901	197
	公益事業合計（A）		**103,283**	**110,990**	**107%**	**105,283**	**114,470**	**109%**	**-2,000**	**-3,480**	**-5,670**
	収1	受託研修（生活支援研修等）	33,000	30,547	93%	24,000	27,756	116%	9,000	2,791	2,717
	収2	高齢者・認知症擬似体験	10,000	7,822	78%	6,000	5,612	94%	4,000	2,210	-1,451
	収3	介護予防料理教室等	3,000	4,569	152%	2,000	3,825	191%	1,000	744	597
	収益事業合計（B）		**46,000**	**42,938**	**93%**	**32,000**	**37,193**	**116%**	**14,000**	**5,745**	**1,863**
公益事業・収益事業（A+B）合計			**149,283**	**153,927**	**103%**	**137,283**	**151,663**	**110%**	**12,000**	**2,264**	**-3,807**
共通	**会費収入・寄付金・雑収益**		**9,400**	**10,702**	**114%**	**0**	**0**	**0%**	**9,400**	**10,702**	**10,923**
	管理費・組織運営費		**0**	**0**	**0%**	**21,400**	**9,651**	**45%**	**-21,400**	**-9,651**	**-7,518**
	法人会計合計		**9,400**	**10,702**	**114%**	**21,400**	**9,651**	**45%**	**-12,000**	**1,051**	**3,405**
公益法人合計			**158,683**	**164,630**	**104%**	**158,683**	**161,314**	**102%**	**0**	**3,316**	**-403**

（単位：千円）

主要事業の報告

千葉は75人、埼玉は60人が受講申し込み

コミュニティカフェ開設講座

２０２３年度も千葉県と埼玉県で開催しています。

５～７月に全10回で実施した千葉講座は、我孫子市の千葉県福祉ふれあいプラザから千葉・市川両市に出張して、一般県民研修として行いました。

第１回の50日前からＳＮＳを含むネットで広報を始めました。申し込みの出足が鈍かったため、初めてチラシを両面カラーで３０００枚印刷し、後援をもらった千葉・市川両市などの公共施設や県内市町村のボランティア・市民活動センター、千葉県と千葉市の社協事務所に置いてもらいました。

毎年全国紙の千葉県版に予告記事を掲載してもらっています。記者は２、３年で転勤していくため、知事や市長の定例会見の時間に合わせて県庁や千葉市役所の記者クラブを訪ね、名刺交換し、掲載を働きかけました。その結果、全国紙３紙と千葉日報に掲載されました。

また、千葉市内の地域紙にも掲載されたほか、ネットの「千葉経済新聞」の記事がＹａｈｏｏ！ニュースやスマートニュースにも転載されました。

「来る者は拒まず」の精神で受け入れた結果、県内は京葉地域のほか南房総・鴨川・成田・銚子など広範囲から、県外は近隣の茨城・埼玉・東京・神奈川のほか北海道・長野から計75人の参加登録があり、毎回、会場とＺＯＯＭのオンラインで30人前後が参加しました。

ＺＯＯＭの録画のオンデマンド配信も試みましたが、だれが視聴しているか分からないため、毎回記名式のアンケートを取りました。全回オンデマンド視聴という人も15人いましたが、手間の割には効果が見えにくいため、来年はオンデマンドは会場やオンラインの欠席者への補講手段だけにしようかと考えています。

埼玉県は10月から全12回で行いますが、既に３月に募集を締め切りました。60人から申し込みがありましたが、書類選考で絞り、35人で開講する予定です。

（理事・コミュニティカフェ事業担当／昆布山良則）

千葉講座では、先輩受講生が開いた「西千葉アトリエカフェぴりーぶ」を見学した。

東京しごと財団と文京区から受託

生活支援サービス研修と介護入門研修

前年度に引き続き２０２３年度も、東京しごと財団の「福祉・家事援助サービス事業　生活支援サービス研修」の委託事業を行っています。

入札制度に基づき２０１５年度から始めている事業です。当初は「シルバー人材センターの会員が地域で高齢者を支える」と国や東京都が高らかに謳い、参加者は常に20人ほどに達していました。

ですが年々、受講者は減少し、本年度は全６回の講座で各回５人以下となりました。

そのような状態ではありますが、最近の受講者はシルバー人材センターに入ったばかりの方が多く、この研修を大変熱心に聞いて頂いております。特に介護保険と上級救命講習は質問も多く活気がある講義となっています。

上級救命講習はシルバー人材センターの会員であることを事前に講師に伝えており、通常の講習よりは丁寧に教えて頂いています。今年は今までと違いＷＡＣ事務局が直接都内のシルバー人材センターとやりとりをしています。

自転車置き場の管理や植木の剪定がシルバー人材センターの仕事として目立ちますが、介護度の軽い方への支援活動などもっと多くの関わりができるはずです。

今年度は１回、２回目が終わり、残り４回分をこれから開催します。

「介護に関する入門的研修」事業は文京区から受託し、昨年９、10月に平日５日間の研修を行いました。対象は文京区民、近隣自治体住民、文京区在勤者、修了後文京区内の介護施設で働きたいと希望している方々です。５人の方が修了しました。

コロナ禍で、教室のソーシャルディスタンスがとれる少人数になったのは良かったのですが、少し寂しかったです。人数が少ない分研修はとても充実していました。講師への質問は毎回あり、生徒それぞれが介護に関して思いや将来についても話してくれました。研修修了後に文京区の介護施設への就職、という文京区のプランには、残念ながら応募者はいませんでした。

今年度も同様の研修を受託しており、10月から土曜、日曜日に開催します。

（事務局長・常務理事／平野陽子）

主要事業の報告

コロナ禍から徐々に再開

品川区の「食」委託事業4カ所

東京都品川区から食に関わる3つの事業を4カ所で受託しています。「外出習慣化事業・大井林町」を毎月第3火曜日に、「わくわくクッキング」を年3回（各10回コース）、それに「シニアのための男の手料理教室」は年2回、品川会場と荏原会場（各10回コース）で行っておりました。

2020年3月に品川区より通達があり、わくわくクッキングが残り3回を残し、外出習慣事業は1回がそれぞれ中止になりました。

それ以降は全て中止が続き、昨年4月と5月にやっと再開できました。

外出習慣化事業は作った料理を持ち帰りで、なお軽食にするようにと品川区からの要請で今期も続いております。

わくわくクッキングとシニアのための男の手料理教室は、募集人数を半数にしました。また、料理教室でありながら、調理が禁止されたため作り方を聞き、食材を容器に入れて持ち帰る状態でした。

参加者の方々から多くの不満の声を聴きながら再開しましたが、2回目以降は材料を切るところまで行い、持ち帰りをして頂きました。10回のコースのうち、5回目以降からは作ることに挑戦できました。

マスク着用なので味見はできませんでした。それでも調理後に持ち帰り、「自宅で家族と分け合って食べた」との話を聞き少しほっとしました。

前期もどうにか終了し、その後、品川区からパーテイションの配布があり、後期からは作ってその場で食べられるようになりました。黙食で各テーブルにパーテイションを置いての食事という制約がありましたが、皆で一緒に食べられる楽しさは少しずつの進歩でした。

今年度も昨年同様の形態で各教室を運営しております。飲み物は各自持参ですが、参加者からのたっての要望で、朝のコーヒーと昼のお茶を復活させました。教室が始まる前のコーヒータイムは、雑談しながらの楽しいひと時となっております。

まだまだ制約がありますが、来年度は通常に戻っての教室運営ができればと思います。

（理事・WACさしすせそポイントリーダー／成塚江見子）

昨年に引き続き好評の「エンジョイ！体力測定」

千葉県福祉ふれあいプラザ

介護予防トレーニングセンターでは、生活習慣病や要援護予防のための安全で効果的な運動プログラムを提供しています。

現在、スタッフは16人。健康運動指導士等有資格者トレーナー、看護師、理学療法士、管理栄養士、医師等で構成しています。利用対象者は40歳以上です。現在、881人が利用者登録をされ、昨年度は延べ約27000人の方が利用されました。

今年6月、昨年度に続き認知症予防啓発イベント「エンジョイ！体力測定」を開催しました。参加者は85人と多くの方が参加されました。日頃の運動の成果の確認です。昨年度は大好評で、今回も申し込み多数と聞いて会場に足を運びました。

「体組成測定」「握力」「片足立ち」「長座体前屈」「ファンクショナルリーチ」の測定がありました。「ファンクショナルリーチ」は聞きなれない言葉ですが、立位のバランスを測定するもので自らバランスを崩す動きをしてどこまで対応できるかというテストです。

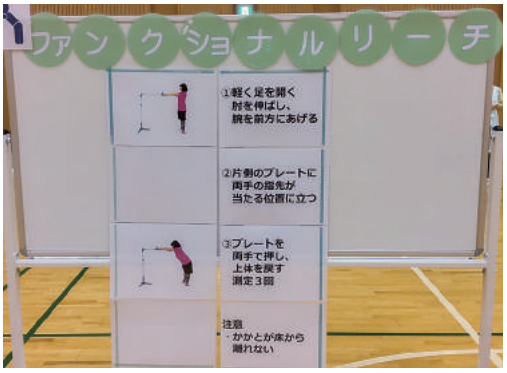
72歳の私も握力測定を試みました。右手は30キロ後半で、70歳代にふさわしいと高評価を得ました。だが、左手は20キロ弱にとどまり、「あれあれ？」と思わず声が漏れてしまいました。同年代の最低評価ランクです。

何度チャレンジしても同じで、筋力低下を痛感させられました。

そして、会場を見渡すと看護師、管理栄養士による相談コーナーが設けられていました。利用者は管理栄養士との接触機会が少ないので多くの相談を受けていました。主な相談内容は「コレステロール」「太りたい」とのことでした。

今後も高齢者の生きがい健康づくりに向け楽しいイベント企画を行いたいと思います。

（統括責任者・常務理事／小町純一）



全国のWACポイント31一覧

地域で交流し、助け合う活動が広がる

活動内容は、コロナウイルス感染防止のため、中止・変更となっている場合があります。

WAC 仙台竹細工趣味の会　庄子 末松

〒 982-0011　宮城県仙台市太白区長町 1-7-28-1203
☎ 022-248-5958　✉ s-take1203@wa3.so-net.ne.jp

原則、第２・第４火曜日に昔懐かしい竹工芸品の作製を通して、会員相互、あるいは地域社会との交流を図り、長寿社会をエンジョイすることを目的に活動している。作製用の材料は、仙台七夕まつりで使った竹をリサイクルしている。

会のメンバーと庄子代表（前列中央）

今年の干支の卯（うさぎ）の竹細工

WAC 翻訳・通訳サービス　金子 賢二

〒 983-0852　宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-2-5
サンライズ仙台２階 LSC 内
☎ 090-2845-8901　✉ kaneko111@hotmail.co.jp

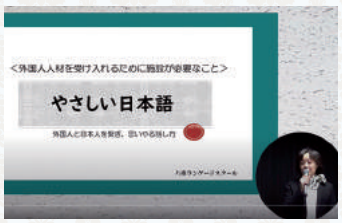
翻訳・通訳サービスを通して、社会への貢献を旗印に活動。有償ボランティアとしての翻訳・通訳サービスの仕事を獲得するとともに、無償ボランティアワークも行う。

Coiki　佐藤 美樹

981-1106　宮城県仙台市太白区柳生 7-26-5
☎ 022-386-9330　✉ miki@coiki.co
https://coiki.co/
https://www.facebook.com/profile.php?id=100057602853288
https://www.instagram.com/tohoku.ken/

在留外国人就労者への日本語教育と、急増している外国人就労者在籍企業へ在留外国人と日本人が「やさしい日本語」を通じてコミュニケーションがとれるよう、「やさしい日本語」研修に力を入れています。日本人が日本語をわかりやすく話すことは、耳が遠い高齢者への話しかけにも有用です。高齢化社会となり、ダイバーシティ（多様性）の尊重が求められる時代に必要な「やさしい日本語」研修は、特にコミュニケーションが必須とされる介護従事者の方に好評です。お互いの歩み寄りが大切なことを伝え、子どもたちの未来のためにも多文化共生社会への礎をつくっていきたいと考えています。ポイント名の Coiki は「ともに永遠に」という意味です。

技能実習生を初めて受けいれた建設会社の皆さんと技能実習生とで「やさしい日本語」講座を開催しました。



山形県老人福祉施設協議会からの依頼で県内介護職員を対象に行った「やさしい日本語講座」の収録の様子

WAC まごころサービスみやぎ　横濱 敬子

〒 980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉 1-16-4　センチュリー青葉 601
☎ 022-215-4353　✉ waccare@gol.com

活動を始めて 30 年になります。スタッフ仲間たちは老化していくばかりで…。フレッシュな人材を募集中です。唯一それにこたえてくれそうなのは、WAC まごころ保育園の園児たちです。

北海道

わっく室蘭　鈴木 健生

〒 050-0072　室蘭市高砂町 1-10-17
☎ 0143-45-2034　✉ wacmuro@oregano.ocn.ne.jp

「さあ、出てきませんか?」の呼びかけから始まり、今年度で 32 年目を迎えることができた。ボランティア活動、会員の交流行事は現在休止中。有償ボランティアのヘルパー派遣事業からスタートした介護保険、障害福祉サービス事業を中心に高齢者、障がい者の在宅介護支援を行っている。

東北

WAC 東北ネットワークセンター　金子 賢二

〒 983-0852　宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-2-5
サンライズ仙台２階 LSC 内
☎ 090-2845-8901　✉ kaneko111@hotmail.co.jp

今年も新しい WAC ポイントの立ち上げを目指す。有志で毎月１回読書会を行い、毎回 10 人前後が参加している。昨年度は、日本財団助成事業「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成」の仙台会場分を WAC 本部と連携して開催した。

千の森　千葉 浩

〒 984-0037　宮城県仙台市若林区蒲町 11-2
☎ 050-3633-3681　✉ chiba45946@nifty.com
https://www.facebook.com/milfille

宮城県名取市高舘にある「千の森ファーム」で、毎月２～3回、日曜・祝日の午前中に活動しています。農薬・化成肥料は使わず除草も最小限に、自然農法に近い形で野菜を種から育てています。季節の移り変わりを五感で感じながら、しゃべって体を動かして、元気で新鮮な野菜を食べて、健康増進中です!

オクラの収穫風景。６月に種を播いて、10 月初旬頃まで収穫できます。やっぱり収穫が一番うれしい瞬間です。

終活麻雀 WAC 仙台阿佐田哲也の会　村山 健太郎

〒 984-0823　宮城県仙台市若林区遠見塚 2-18-27　有限会社山宝社内
☎ 090-1377-3188　FAX 022-765-2491

高さ 3m にもなるアカザという一年草を使って、仙人や七福神が持っていたといわれる縁起のいい杖を作っている。「アカザ魔法の杖」で商標登録済みで、依頼があれば作り方を教えている。仙台市周辺のお地蔵さんに杖を置く活動も始めた。終活麻雀は、コロナ禍でも月１回（第４日曜日）、仙台市青葉区一番町の藤ホールで行っている。

「麻雀放浪記」の阿佐田哲也をしのび、その名前を冠したマージャン大会を仙台で行っている。

杖を持ったお地蔵さん

※ネットワークセンター名・ポイント名　代表者名（敬称略）
※〒郵便番号　☎電話番号　FAX 番号　✉ Eメールアドレス　ホームページ　Facebook　Twitter　Instagram

ふれあいネットまつど　嶋田 直美

〒 270-2251　千葉県松戸市金ケ作 99-6
NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど
☎ 047-710-7450
fnm2011@r4.dion.ne.jp
https://fnm2011.okoshi-yasu.com/
https://www.facebook.com/fnm2011
https://twitter.com/fnmabc

元気高齢者のための生活支援ボランティア研修会で、受講生に高齢者疑似体験「うらしま太郎」を装着し、生活のしづらさ、不便さを学んでもらっている。

身体の動きづらさ、目の見え方、物の持ち方、不便さを実際に体験。利用者の気持ちになりきりました。

ふれあい大網　佐藤 廣子

〒 299-3263　千葉県大網白里市柳橋 736-13
☎ 0475-72-5022　fureais@wine.plala.or.jp
http://www.fureais.co.jp/

高齢者疑似体験「うらしま太郎」のほか、居宅介護支援事業、訪問介護事業、サービス付き高齢者住宅の運営、介護職員の初任者研修・実務者研修等を行っている。

渋谷介護サポートセンター　服部 万里子

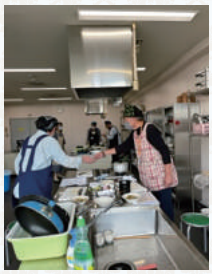
〒 150-0046　東京都渋谷区松濤 1-1-3　松濤栄光ビル 4 階
☎ 03-3469-4361　npo@shibuyakaigo.com
http://www.shibuyakaigo.com/

コロナ禍前は渋谷区の小学校、中学校、高校などで高齢者疑似体験セミナーを行いましたが、この３年半は皆無です。年に１回の渋谷区を挙げての福祉祭り「せせらぎまつり」でも、毎年屋外に体験ブースを設け、小学生から親子、福祉関係者などに高齢者疑似体験をしていただき、楽しく学ぶ機会がありましたが４年中止です。現状は渋谷地域のケアマネジメントをケアマネジャー７人でしています。あらゆる介護相談も受けています。ケアマネジャーを目指す人の実習受け入れ、毎月の介護福祉関係研修会も主催しています。

WAC さしすせそ　藤井 多津子

〒 145-0065　東京都大田区東雪谷 4-6-8
☎ 03-3728-6540
jijiwakuroneko@yahoo.co.jp

品川区高齢者介護予防事業を WAC 本部と協働して、「男の手料理教室」（2 カ所）、「わくわくクッキング」、外出習慣化促進「食事処」の3事業を行っている。今年度は各教室とも定員の半分で通常の料理教室となっている。「食事処」は昨年同様、サンドイッチやおにぎりなどの軽食をお持ち帰りとしている。今後も感染予防の対策を講じて運営していきます。


男の手料理教室

WAC 認知症改善相談センター　鷹野 義量

〒 160-0011　東京都新宿区若葉 1-22-16　四谷 ASTY207 号室（担当：石川裕子）
☎ 03-6380-5205　FAX 03-6380-5549
shinshintokyo2018@gmail.com

昨年、急逝した小川眞誠氏（WAC 理事）は、30 年前から認知症の改善実践プログラムの普及を図ってきた。遺志を継ぎ、脳卒中後遺症のリハビリテーション、障害者の身体機能、知的・精神症状の改善を目的に活動している。2021 年 1 月からは、発達障害児の身体・知的・精神の改善に着手。成果が上がると確信している。アフターコロナ時代に必要な運動療法として、三世代を対象に普及推進する。

WAC プライム・ケア・トレーニング（WAC P.C.T）　前田 宏興

〒 241-0836　神奈川県横浜市旭区万騎が原 29
横濱万騎が原行政書士事務所内
☎ 045-391-3501　gonatuo@gmail.com

各メンバーが独自の活動（成年後見活動、外国人留学生の支援）を行っている。

関東

WAC とちぎ　髙村 和夫

〒 320-0828　栃木県宇都宮市花房本町 5-5　有限会社タスコ 2 階
☎ 028-637-2488　info@kenkouma-t.com
http://kenkouma-t.com/

コロナ禍で活動を中断しながら、健康マージャンの集まりは月に１～２回、自治体委託の健康マージャン教室は再開されていません。コロナ前の従来の活動を望んでいます。

WAC ぐんま　後藤 満里子

〒 378-0061　群馬県沼田市岡谷町 1077-2
☎ 0278-22-0705　oze-info@oze-nadeshiko.com
https://npoozenadeshiko.wixsite.com/website/

例年、年６回ずつ、偶数月には 3A 方式認知症予防ゲーム、奇数月には手芸教室やふまねっと運動を茶のみ処「なでしこ」で行っていたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべての活動を中止した。今年度はふまねっと運動を展開しようと考えている。また地域に根差している NPO 法人として、働く方のため、利用者のため、将来自分も利用する身として、介護初任者研修も行いたいと考えている。

運営する学童クラブの子どもたちに野菜づくりを教えている。

子どもたちに蕎麦打ち体験してもらいました。

WAC 浦和　ケア・ハンズ　大麻 みゆき

〒 330-0073　埼玉県さいたま市浦和区元町 2-5-1　アーバン元町 102
☎ 048-813-1006　c9a9r5e@nifty.com
https://carehands1995.jimdofree.com/

介護保険枠外でのホーム・ヘルプサービスを実施している。また、高齢者、障害者への理解、啓発活動として高齢者疑似体験「つくし君」を市内小学校には無償で利用してもらっているが、コロナ禍のため昨年は中止となった。

WAC 千葉　川原 健一

〒 260-0013　千葉県千葉市中央区中央 1-10-10-406
☎ 043-225-4224　info@f-angel.jp

地域における介護相談や関連事業の紹介などを実施している。

千葉ケア企業組合　町野 美和

〒 261-0011　千葉県千葉市美浜区真砂 1-10-18
☎ 043-278-9298　machinomiwa@bi-10.net

介護保険事業として、地域密着型通所介護、訪問介護を実施している。助け合い活動として、通院介助や薬受け取り代行、配食・洗濯サービスなども行っている。介護予防のための健康麻雀を実施中。

七夕飾りの前で写真に納まるデイサービスまさごの利用者たち

町内会の防災訓練にデイサービスまさごの利用者とともに参加

※ネットワークセンター名・ポイント名　代表者名（敬称略）
※〒郵便番号　☎電話番号　FAX 番号　Eメールアドレス　ホームページ　Facebook　Twitter　Instagram

ほっとケアまほろば　高倉 幸次

〒 525-0055　滋賀県草津市野路町 171-8
☎ 077-562-5357
koushou@hera.eonet.ne.jp
認知症予防健康マージャンと認知症予防サロンを月２回、草津コミュニティ支援センターで開催していたが、昨年はコロナ禍でほとんど活動できなかった。古社寺巡礼など、外へ出る活動を再開している。

京都・鞍馬寺の多宝塔前で

WAC さくらんぼ京都　石田 淑子

〒 615-8241　京都府京都市西京区御陵谷町 17-12
☎ 075-392-0443　nql28521@nifty.com
おひとり様の生活について、会員外の人達と話をしたい。しかし、コロナ禍のため皆さんにお声がけできずにきた。昨年は WAC 主催の講演会「地域共生ボランティアのすすめ」京都会場の運営をお手伝いした。

WAC わかやま　松本 美香

〒 641-0051　和歌山県和歌山市西高松 1-1-26 A・T ビル３階
☎ 073-435-4555　wacwakayama@gmail.com
https://wacwakayama.wixsite.com/wacwak
和歌山市の小学校での高齢者疑似体験「つくし君」のほか、月１回の託児グループ「ポピンズ」の活動、和歌山市および周辺でサポートを必要とする和歌山県民の生活支援、保育サポーター養成講座の開催、託児ルームの開設、保育者派遣のコーディネート等を行っている。

中国・四国

WAC ひろしま健康麻雀サロン　中村 純朗

〒 733-0852　広島県広島市西区鈴が峰町 43-6-602
☎ 080-3894-8124
毎週水・金曜日、毎月第３月曜日の 10 ～ 16 時に健康マージャンを開催している。開催中は「耳石」の機能保持のため、１時間ごとに軽運動を行っている。コロナ禍により参加者が激減したまま、前途多難な状態が続いているが、90 歳代の方が３人参加している。だから、「灯は絶対に消さない!」と頑張っている。

WAC わをん　重松 美穂

〒 794-0056　愛媛県今治市南日吉町 2-2-38
☎ 0898-25-3226　wawon@estate.ocn.ne.jp
http://wawon-imabari.jp/
https://www.facebook.com/NPO法人-わをん-852093854944865/
令和4年度「心の交通バリアフリー研修」を3年ぶりに対面研修で行った。今回は、バス事業者の協力を得て、当事者の方を招待し、車いす利用者のバス乗降介助の研修を行った。小・中学校の高齢者疑似体験も、感染対策をしながらの再開です。今治市商店街の交流スペース「mi Aire（ミ・アイレ）」では、引き続き介護研修・カラーセラピー・介護相談等で市民に気軽に立ち寄ってもらっている。

中学生と地域住民とのゲーゴルゲーム

商店街の交流スペースの前に立つわをんのスタッフ

WAC 介護福祉サポートセンター　塚本 肇

〒 230-0074　神奈川県横浜市鶴見区北寺尾 2-13-18
☎ 090-1769-5602　tsukamoto.h.0721@gmail.com
介護関係事業を行っている。

Ribinet（福祉理美容師ネットワーク）　戸塚 貴博

〒 216-0026　神奈川県川崎市宮前区初山 1-38-3
☎ 044-976-9995　houmonribiyou@gmail.com
https://ribinet.com/
https://www.facebook.com/ribinetwork
https://twitter.com/ribi_net
昨年は、新型コロナウイルス感染防止のため活動に制限があったが、訪問理美容は利用者さんと技術者で感染予防を徹底して行った。研修やボランティアカットの活動はできなかったが、利用者さんとはつながっていきたいと思う。

中部

Garage Cafe ホッとスペース Myu　三浦 冨貴子

〒 400-1515　山梨県中央市高部 1785
☎ 090-5546-5100　cij.kofu@tomato.plala.or.jp
健康維持・増進のための「こころと体のセルフケア」として、百歳体操と「キャパシター・こころと体のセルフケア体操」を行っている。居場所機能として、憩いの場「絵本 Cafe」で茶話会、傾聴、読書スペース開放等を行っている。今年はグリーフケア講習会も計画している。

中央市社協の会場を借りて月１回行っている「キャパシター・セルフケア体操会」

WAC 清水さわやかサービス　松本 利枝

〒 424-0929　静岡県静岡市清水区日立町 24-17
☎ 054-336-8844　wacshimizu@sepia.ocn.ne.jp
http://wac-shimizu.com/
介護保険事業では居宅介護支援、自立支援型デイサービス・はたらくデイサービスの２つの地域密着型通所介護を運営しています。さわやかサポートは介護保険外の生活支援、配食等の活動を、ほかに居住支援法人や子育て支援ヘルパー等「困ったことをニーズに変える」活動実施中です。

ながの健康麻雀サロン　宮下 文夫

〒 381-0055　長野県長野市屋敷田 396-14
☎ 090-3145-7700
毎週水・金・土曜日の 10 ～ 17 時に定期的に開催していたが、コロナ禍の現在は休止している。再開を目指している。

WAC 介護ふじ　佐橋 満智子

〒 454-0921　愛知県名古屋市中川区中郷 3-337
☎ 052-354-1274　052-351-5002
地域密着型で介護保険制度施行前から「あったか介護」で暮らしのサポートに務めてきた。介護保険制度では、訪問介護、予防専門型訪問サービス、生活支援型訪問サービス等を実施している。

近畿

WAC 近畿ネットワークセンター　高倉 幸次

〒 525-0055　滋賀県草津市野路町 171-8
☎ 077-562-5357　koushou@hera.eonet.ne.jp
昨年度は、日本財団助成事業「コミュニティカフェ等、地域共生社会のための活動の担い手育成」の京都会場分を WAC 本部と連携して開催した。WAC さくらんぼ京都と協働で行った。

※ネットワークセンター名・ポイント名　代表者名（敬称略）
※〒郵便番号　☎電話番号　FAX 番号　Eメールアドレス　ホームページ　Facebook　Twitter　Instagram

『ふれあいねっと』は、個人会員700人（うち個人正会員91人）のほか、以下の法人・団体のご協力により、発行しています。

㈱ウェアラブル環境情報ネット推進機構／(一財)高齢者住宅財団／(公財)さわやか福祉財団／㈱SSSネットワーク／(公財)テクノエイド協会／㈱東京山の手まごころサービス／TOPPANエッジ㈱／(一社)日本産業カウンセラー協会／㈱日本心身機能活性療法指導士会／(一社)日本青少年育成協会／久光製薬㈱／㈱りすシステム／YKK AP㈱
※五十音順。㈱＝株式会社、(一財)＝一般財団法人、(公財)＝公益財団法人、(一社)＝一般社団法人、㈱＝NPO法人

表紙の写真は：
右上隅●千葉県市川市の「みどりtoゆかり」の前で運営者親子と受講生たち（P6のコミュニティカフェ開設講座）
右側の上から●千葉県市川市の「ダーシーズ コーヒー」を見学する受講生（P6のコミュニティカフェ開設講座）●東京都杉並区で行われた生涯現役社会推進事業における「生涯現役セミナー」（P6の東京しごと財団から受託）●千葉市中央区の「まる空間」で行われていたマルシェで品定めする受講生たち（P6のコミュニティカフェ開設講座）●上級救命講習で心肺蘇生法やAEDの使用方法などを学ぶ（P6の東京しごと財団から受託）
左側の上から●千葉市稲毛区の「おりーぶねっくすと」を見学●千葉市稲毛区の「HELLO GARDEN」を見学●千葉市中央区の「BOOK PARK ちばぎんざ」で講師の話を聴く（いずれもP6のコミュニティカフェ開設講座）

ふれあいねっと
Wonderful Aging Club Network and Communication

2023年8月15日発行 通巻287号

発行人：升田 忠昭
編集人：浅川 澄一
編　集：昆布山 良則
発　行：公益社団法人・長寿社会文化協会
〒105-0011
東京都港区芝公園2-6-8
日本女子会館1階
TEL：03-5405-1501㈹
FAX：03-5405-1502
制　作：岡村直実（JCユニット）
定価　1冊400円

惜別

事務局長の小林里美さんが逝去

WAC現職の事務局長で常務理事だった小林里美さんが、4月13日に亡くなられました。65歳でした。謹んでご冥福をお祈りします。

黒字運営に知恵を絞る

理事、千葉ケア企業組合 代表理事／町野美和

小林さんはWAC設立6年後の1994年に入社しました。約30年もWACで活動し、そのうちの約半分は千葉県の指定管理事業である千葉県福祉ふれあいプラザ（我孫子市）の統括責任者として重責を担ってきました。

千葉県が企画・運営する団体を募集していると聞き、里美さんと私はWACが運営主体になるべく県に働きかけたのが始まりです。

職員体制について、独自のアイデアを持っていました。普通なら、地域のボランティアをリクルートして自分の直属の部下にするものですが、里美さんは、WACと対等な地元団体、NPO法人ACOBAとの連携を提案してきました。

実は、当時の私はよく飲み込めませんでした。

里美さんはプラザの開設当初からリーダーシップを発揮し、黒字運営にしようといつも考えていました。ACOBAと話し合って独自性溢れるイベントをいろいろと生み出し、実現させてきました。

プラザ内のホールを恒常的に利用しようと、ダンス教室などを開きました。ACOBAの伝手を活用して多くの利用者を集めることができました。

里美さんの先見の明が花開き、同プラザは現在、指定管理事業の第5期に入っていますが黒字運営を続けています。

「おっはよう」と笑顔の声が…

事務局長・常務理事／平野陽子

小林里美さんが、急逝して4カ月。「おっはよう」と大きな声で朝、事務所に来て、夕刻に「じゃあ先に帰るね。お疲れ」と言う明るい声がいまも聞こえてきそうです。

25年も共に過ごしてきました。初めの頃は、全国各地で開催していたホームヘルパー2級の通信教育のまとめ役でした。東京都庁へ書類を提出しによく通ってました。

都から再提出を求める電話に、「申し訳ございません」と何度も謝っていました。担当者から「あなたの申し訳ございませんは結構ですから書類を差し替えて」と指摘され、あわてて事務所を飛び出して行きました。

WACの事務所が青物横丁から芝公園へ移転した時には、最後まで2人でごみの片付けをしました。天井まで届く書類や廃棄する机などをまとめている時に、疲れたと言いながら、懐かしい本や写真に見入っていました。

私との日々の言い争いは度々です。締め切りや納品寸前で殺気だっている私に、マイペースの小林さんから「ねえ、ねえ　ひらのー」とよく声が掛かる。急ぎの用でない。私は「それ今かな?」と切れ気味に返しておりました。

のんびりしているようで、頑固なところもあります。昨年の夏ごろに体調が悪い時があり、「大きな病院に行きなよ」「ゆっくり来なよ」と声を掛けても「WACに来ると元気になる」と聞いてもらえませんでした。

12月になると、電車でも立っていられないほどに。「WACに来ないで医者に行け」と怒鳴り、やっと千葉県柏市の病院に向かった次第です。「検査の結果は胃も腸もきれいだと言われた」と元気そうに話していました。健康が自慢で「私はインフルエンザにもなったことない」が口癖でした。

でも、この2月に入院してからはほとんど話す機会がなく、メールでの短いやりとりだけでした。

小林さんらしく「お先に失礼」と言ってあちらにいってしまったような気がします。あちらでは知り合いの方々と大声で笑っているのかなと思います。

「ふれあいねっと」バックナンバーのご案内

1 冊 400 円、かわら版は 1 部 100 円（いずれも税込）＋送料（メール便）でお分けします。代金後払い（郵便為替・銀行振込、手数料お客様負担）です。
在庫がなくなり次第販売終了となりますので、あらかじめご了承ください。

2023年2月号（No.286）

- Message（町野美和 理事）
  コロナ陽性での気力減退から回復
  お泊りデイの利用者に寄り添う日々
- 「地域共生ボランティアのすすめ」
  仙台市と京都市で開催
  子ども食堂、カフェ事業者らが登壇
  見学者がボランティア活動の現場で
  感じたこと、学んだこと
- 元理事の亀川昌一さんが逝去

2022年8月号（No.285）

- Message（京極高宜 会長）
  「レゾン・デートル」を再認識
- WAC 定時総会
  事業収入はマイナスに
  コロナ禍で収入減が響く
- 主要事業の報告
  地域共生ボランティアの養成講習
  苦労しながら再開した品川区料理教室
- 全国の WAC ポイント一覧
- 新人職員紹介

2022年3月号（No.284）

- 認知症啓発イベント「長谷川和夫先生が伝えたかったこと」
  ――長谷川和夫 WAC 元会長の「認知症ケア」講演記録を視聴
- 「認知症当事者に向き合う先生」
  看護師・五島シズさん
- 「働く認知症デイ」に取り組む
  WACさわやか清水
- オンラインで高齢者疑似体験の研修
- 「チームオレンジ」の参加者へ研修

2021年12月号（No.283）

- Message
  WAC 勤続 22 年を迎えて
- 成年後見制度
  コミュニティカフェを
  市民後見の活動拠点に
- 主要事業の報告
  コミュニティカフェ講座は対面で開講
  22 年 3 月で幕の「みなと＊しごと 55」
- ふれプラの利用者は例年の半数に
- 神聖な会場で国旗の受け渡し
- 「編集長の眼」No.12

2021年8月号（No.282）

- Message（升田忠昭 理事長）
  生涯現役社会の実現に向けて
  理事長 3 期目の抱負
- WAC 定時総会
  コロナ禍でも 1331 万円の黒字
  事業収入は 1790 万円の減
- 理事会
  5 人の業務執行理事を決定
- 主要事業の報告
  千葉市、埼玉県伊奈町、
  東京都府中市で
  コミュニティカフェ開設講座
- 全国の WAC ポイント一覧
- Ribinet（福祉理美容師ネットワーク）
  が毛髪の寄付を受付中!!

2021年3月号・かわら版コロナ禍・医療特集号（No.281）

- コロナ禍における訪問介護サービス
- インタビュー「聞こえの保障」の
  大切さ
- 千葉県福祉ふれあいプラザから
  認知症―「症状」と「病気」の違い
- 教えて! 高齢社会 Q & A
  統合医療について
- コロナ禍での私の新生活
  ～看護師の知識と経験を活かしながら
- 第 4 代回会長の藤井威さんが逝去

ご注文

お送り先の郵便番号、住所、電話番号、氏名、希望の号、冊数を下記までお知らせください。

WAC WONDERFUL AGING CLUB
● E-mail：iken@wac.or.jp ● FAX：03-5405-1502 ● TEL：03-5405-1501
公益社団法人長寿社会文化協会

2023年8月15日発行●通巻287号●発行＝公益社団法人長寿社会文化協会（WAC）
定価●400円（税込）